

# 地域再生計画

## 1 地域再生計画の名称

文化交流型社会形成による被災した過疎地の再生計画

## 2 地域再生計画の作成主体の名称

輪島市

## 3 地域再生計画の区域

輪島市の全域

## 4 地域再生計画の目標

### (1) 地域の現況

本市は旧輪島市と旧門前町が合併し、新「輪島市」として平成18年2月1日に発足した。日本海に突き出した能登半島の北西部に位置し、面積が426.24k㎡、市域の64%が山林に覆われており、平坦地は少なく、総延長約81.8kmに及ぶ海岸線は優れた自然景観を呈し、その大部分が能登半島国定公園に指定されている。

本市は伝統文化・芸能の根付いたまちであり、永い歴史に培われた伝統産業である輪島塗、日本三大朝市の一つである「輪島朝市」や曹洞宗大本山「總持寺祖院」、国指定名勝「白米の千枚田」、石川県無形文化財「御陣乗太鼓」などに代表される豊かな地域資源を生かした観光産業が主要産業の一つとなっている。

本市の人口は、社会情勢の変化により過疎化の波が押し寄せ、平成15年12月末住民基本台帳人口の35,620人（旧輪島市と旧門前町の合計）から平成20年の33,176人（8月1日現在）と5年間で6.9%減少し、高齢化率も36.6%（平成21年4月1日現在）に達するなど、人口減少・少子高齢化を迎えている。

高齢化ゆえ、助け合い精神でコミュニティの強い土地柄ではあるが、地域によっては、人口減少が急激に進み、結束力の衰退が危惧されているところである。

また、輪島塗は近年の生産額がピーク時の40%、従事者数も60%に減少を余儀なくされる深刻な状況となっている。これは、輪島塗に限らず国内の伝統産業が抱える共通の悩みであり、有効な解決策が見出されない問題である。

こうした状況の下、平成19年3月25日に本市西南西沖40kmの日本海で発生した平成19年能登半島地震では、震源となった自治体として市内全域で甚大な被害を被った。

### (2) 地域の課題

震災後は、国・石川県の取り組み、市民の互助と努力、ボランティアやNPOなどの協力により、道路等のインフラや建物の復旧等も進んだが、地場産業（漆器業や観光

関連業）は依然として停滞している。高齢化の著しいコミュニティも活気が戻っていない状態である。いずれも震災被害だけによるものではないが、大きな影響を与えたことは間違いない。

漆器に関しては、これまでの閉塞感が続く一方で、大量生産・消費を見直し、優れた良質の工芸品を長く使うことに対して、一般の関心が徐々に高くなっている。欧州や米国をはじめとした海外においても、日本の伝統工芸品が注目される動向がある。また、漆以外の工芸や芸術、工業製品などとの異業種交流も盛んになっている。他の様々な価値観を取り込んだ新たな展開が、再生へ向けた方向性の一つであると期待されている。

輪島の漆器業界は伝統的に用いてきた素材や工法、意匠等にこだわり続け、そのものづくりに対する姿勢が高く評価され、国内一の漆器産地としての信頼を得ている。このことは輪島にとって大きな強みであり、守り続けるべきことである。

これらを踏まえて、伝統を改めて見つめ直したうえで、いかに魅力的な商品の提案やPRを行うかが、求められている。

### （３） 地域再生計画の目標

市外から様々な芸術家や料理人等を招き、外からの文化的刺激と従来からある地域の伝統が交流することで、地場産業とコミュニティの活性化を図る。

結果として、漆器においては新しいアイテムやデザインを創造、飲食業においては地域の食材や料理と結びつくことでこれまでにない魅力的な料理の創作を行い、それぞれの定着化と発展に努める。

工房見学を受入れ、専門家同志の交流に留まらず、広く一般に対する交流活動を展開することで、地域の賑わい創出を図り、市外からの宿泊滞在個人客（グループ）の増加を目指す。

- ・交流会参加者：１回あたり２０人
- ・工房見学受入件数：平成２０年度 月１件 → 平成２１年度 月５件
- ・観光宿泊者数：平成２０年度２１５．９千人 → 平成２１年度末 ２１７千人

## ５ 目標を達成するために行う事業

### ５－１ 全体の概要

目標達成にあたり、輪島市とＮＰＯが協働し、本市が地震後に新たに修復整備した交流・集会施設等を活用し、市外から芸術家や料理人等を招き、作品制作や展示会、地元漆器職人との意見交換会や講演会の場を定期的に設ける。

また、調理人を招き、輪島の食材や調味料と地酒、輪島塗の器を用いて料理創作、地元調理人と輪島の食文化の可能性について意見交換する場を定期的に設ける。

さらに、漆器作りの各種工程を見学し、職人の手仕事や道具、作品をじっくり眺めた

り、職人と親しんでもらえるような、見学会を企画する。

## 5-2 法第5章の特別の措置を適用して行う事業

該当無し

## 5-3 その他の事業

### 5-3-1 基本方針に基づく支援措置による取り組み

#### (1) 支援措置の番号と名称

【B2001】官民パートナーシップ確立のための支援事業

#### (2) 実施主体

特定非営利活動法人輪島土蔵文化研究会（平成19年10月24日認証）

#### (3) 事業内容

##### ■アーティスト・イン・レジデンス

県外からアーティストを招聘し、当該施設等で長期滞在しながら作品を制作してもらい、最後に展示会を開催する。

##### ■招聘アーティストと地元漆芸職人との文化交流会の開催

漆芸とは分野の異なる（滞在している）アーティストと地元職人とがアートや作品づくり、ライフスタイルなどについて自由に意見交換する場（トークセッション）を定期的で開催する。また、異分野どうしの協働作品制作（コラボレーション）の可能性についても検討する。

##### ■招聘シェフと地元調理人との技術交流会の開催

東京や金沢からシェフ（調理人）を招き、輪島の食材や調味料と地酒、輪島塗の器を用いて料理を創作してもらい、地元調理人と輪島の食文化の可能性について意見交換する場を定期的に設ける。

##### ■工房・土蔵見学受付と案内（コンシェルジュ）

漆芸の各種工程を見学し、職人の手仕事や道具、作品をじっくり眺めたり、職人と会話を楽しんだり、修復中あるいは修復を終えた土蔵を見学することを希望する観光客が増えている。彼らの要望とスケジュールを聞き、オリジナルのプライベートツアーをアレンジし、その受付をしたり、案内のサービスを提供する。

## 6 計画期間

認定の日から平成 22 年 3 月末まで

**7 目標の達成状況に係る評価に関する事項**

事業終了後、地場産業関係者へのヒアリング調査（新商品開発の動き等）と宿泊事業者への宿泊実態調査を行い、目標達成状況を評価する。

**8 地域再生計画の実施に関し当該地方公共団体が必要と認める事項**

該当無し